

戦略6 教育・人づくり戦略			
目指す姿3 グローバル社会で活躍できる人材の育成			
幹事部局名	教育庁	担当課名	高校教育課
評価者	教育委員会	評価確定日	令和7年7月31日

グローバル社会において、国際感覚や世界的視野を持ちながら、協働して課題を解決する力や英語による発信力を身に付けた多数の人材の輩出を目指します。

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 英検3級相当以上の英語力を有 する中学校3年生の割合(%)	目標			54.0	56.0	58.0	60.0	72.4%	1	
	実績	39.1	—	44.4	46.9	42.0					
	出典:文部科学省「英語教育実施状況調 査」	達成率			82.2%	83.8%	72.4%				
②	【施策の方向性②】 英語ディベート交流会等への参加 生徒数(人)	目標			105	110	115	120	133.9%	4	
	実績	75	61	136	151	154					
	出典:県教育庁調べ	達成率			129.5%	137.3%	133.9%				
③	【施策の方向性③】 国際理解講座への参加者数(人)	目標			500	525	550	575	218.9%	4	
	実績	569	592	847	893	1,204					
	出典:県調べ	達成率			169.4%	170.1%	218.9%				

定量的評価結果	計算式
3.00 (c 相当)	4 点 × 2 個 = 8 点 1 点 × 1 個 = 1 点
	3 点 × 0 個 = 0 点 0 点 × 0 個 = 0 点
	2 点 × 0 個 = 0 点
	合計 9 点 ÷ 3 個 (判明済み指標) = 3.00

[illegible]

2－3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① グローバル化に対応した英語教育の推進】	
・ 中学校と高等学校の英語担当教員が合同で受講する中高連携授業改善セミナーを実施し、中学校と高等学校のスムーズな接続と互いの指導について理解を深めた。また、同セミナーでは外国語指導助手と中高の英語担当教員が指導法についてディスカッションを行い指導法の共有を図るとともに、発信力の強化を図るという方向性を確認した。 ・ 小中高の英語担当教員のうち希望者を対象に、外部講師による研修「教師の英語力アップトレーニング」を実施し、37名が実践的なトレーニングを体験した。受講者はその後オンラインのTOEIC IPテストの受験準備と実際の受験を通して、自らの英語力の向上を図った。	
【施策の方向性② 多様な国際教育の推進】	
・ 即興型英語ディベート大会において、初心者の部で論題を事前に公開し、参加への心理的ハードルを下げた結果、参加者は前年度より15名増加した。一方で、e-Debate交流会では初心者部を設けなかったため参加者は12名減少し、両事業を合わせた参加者は3名の増加にとどまったが、英語ディベートに取り組む学校は増加している。 ・ 課題研究等を通じて英語での発信力強化に取り組む、オンライングローバルラーニングプロジェクト指定校（4校）において、国際交流活動が精力的に行われた。由利高校では、修学旅行で台湾の高校を訪問し、互いに文化紹介を行うなど交流を深めた。また、角館高校では、台湾の姉妹校を訪問し、探究活動の成果を英語で発表するなど多様な活動を行った。	
【施策の方向性③ 県民の国際理解の促進と多文化共生の推進】	
・ 県民の国際理解の促進を図るため、国際交流員による国際理解講座等を47回開催したほか、海外交流の架け橋となる人材の育成を目的に、甘肅省から研修員1名、ブラジル及びアルゼンチンから各1名の研修員を受け入れ、秋田県立博物館や秋田県埋蔵文化センター等で研修を実施した。 ・ 県内在住外国人の安全・安心で暮らしやすい環境を確保するため、秋田県国際交流協会内に設置した秋田県外国人相談センターや地域振興局単位に配置した地域外国人相談員（9人）が、在住外国人の様々な生活相談等に適切に対応した（相談件数：外国人相談センター276件、地域外国人相談員279件）。	

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.00で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションができる能力が育まれている。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	14.0%	10.9%	10.3%		△0.6
	十分 (5点)	1.0%	1.1%	1.7%		+0.6
	おおむね十分 (4点)	13.0%	9.8%	8.6%		△1.2
	ふつう (3点)	42.6%	37.6%	38.0%		+0.4
	否定的意見	21.2%	29.5%	26.4%		△3.1
	やや不十分 (2点)	14.1%	19.7%	18.0%		△1.7
	不十分 (1点)	7.1%	9.8%	8.4%		△1.4
	わからない・無回答	22.2%	22.0%	25.3%		+3.3
	平均点	2.83	2.65	2.70		+0.05

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の 方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 英検 3 級以上相当の英語力を有する中学 3 年生の割合は前年度を下回り、文部科学省が求める指標である 50% も下回っている。生徒の語彙力の定着と長い文章を読むことに課題が見られる。	○ 年 2 回開催される全県指導主事等連絡協議会において、全県的な課題について理解を深め、各地区で開催される研究会及び学校訪問での指導内容の共有を図る。また、共有された内容を教員研修の講師である外部有識者にも伝え研修の内容に取り入れてもらい、課題の解決を図る。
②	○ 即興型英語ディベート大会及び e-Debate 交流会への参加者は前年度より 3 名増加したものの、参加する学校が固定化されている。	○ 参加校の拡大を図るため、今年度は即興型英語ディベート大会において初心者の部の中に「専門学科の部」を新設し、更に参加しやすいように配慮する。また、ディベートイングリッシュキャンプを開催し、ディベート初心者への指導を充実させる。
③	○ 企業の外国人材の受入促進などにより、今後県内在住外国人の増加が予想されるものの、日本語教育を行うための環境整備が追いついていない。	○ 「秋田県日本語教育の推進に関する基本的方針」及び「秋田県日本語教育環境整備推進のための年次計画」に基づき、関係機関と連携して日本語教育の環境整備を推進する。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「c」をもって妥当とする。
